

【平和記念式典への参加について】

平和記念式典は原爆が投下された71年目の8月6日、平和公園で挙行されました。原爆死没者名簿奉納から始まり、式辞、献花、原爆の投下された午前8時15分には平和の鐘を鳴らして原爆死没者に哀悼の意を表し、恒久平和の実現を祈り1分間の黙とうを行いました。平和宣言では広島市長が「被爆者の平均年齢は80歳を超え自らの体験を生々の声で語る時間は少なくなっています。未来に向けて被爆者の思いや言葉を伝え広めていくには若い世代の力が必要です。」と述べました。その後放鳩があり、子供代表が平和への誓いで「私達には被爆者から託された声を伝える責任がある。一人一人が自分の言葉で戦争を知らない人、次の世代、世界の人へ命の尊さを、平和への願いを語り伝えて行きます。」と述べました。その後は安倍総理等の挨拶があり、ひろしま平和の歌を合唱し、原爆死没者の霊を慰め、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を訴える式典は厳かに閉式しました。

【平和記念式典へ参加して心に残ったこと】

これから平和記念式典に参加して心に残った黙とうについて報告します。

8月6日8時15分、司会者の「黙とう」という合図で広島平和記念式典参列者全員が原爆犠牲者に哀悼の意を捧げ、平和への実現を誓いました。鐘の一つ一つの音が私の心に響きました。そしてこの音が世界中の人々に届いて欲しい、この音を聞いて心の底から人の命の重み、尊さを感じて欲しいと思いました。

私は目を閉じながら、資料館で見た被爆後の情景を思い出していました。胸が締めつけられるような感覚を覚えました。私は8月6日のあの日をもう二度と繰り返してはいけないと、強く思いました。71年前の広島の様子や人々に思いを馳せていると、1分間があっというまに去って行った気がしました。国を問わず会場にいた全員のたくさんの思いが、一つの平和の願いへとつながったように感じました。

私は、式典でのスピーチについて話します。

安倍総理をはじめ、広島県の県知事さん、市長さんなどの、たくさんのスピーチを聞きました。英語でスピーチをされる方もいました。

どのスピーチからも、「平和への思い」、「核兵器のない世界への願い」が伝わってきました。

たくさんのスピーチの中でも、強く心に残ったものがありました。それは、「平和への誓い」です。子供代表として、小学6年生の男の子と女の子がスピーチをしていました。とても堂々としていて、立派でした。一つ一つの言葉に、一つ一つの思いが込められていて、私の心にしっかりと刻まれました。

このスピーチを聞いて、私は世界平和への気持ちが今までよりももっと強くなりました。外国人の方も、私達日本人も、戦争が起きないことを願っているのはみな同じであることを実感することができました。

僕が広島平和記念式典での献花を通して感じたことは、71年前の広島原爆により亡くなられた方々に対して、多くの方々が花を奉納されていたことについてです。広島、原爆の日から71年が経っているにも関わらず何万人もの方が、花を奉納されていたことに僕は驚きました。当

日は、大変太陽が照りつけ気温も高い中、慰霊碑の前には花を奉納するために何万人の方が並び献花をされていました。僕は花を持って列に並び、自分の順番を待って、最前列へ行くと花を奉納して手を合わせ、原爆で亡くなられた方に慰霊をしました。献花は広島市長や広島の小学生の代表の方も行いました。

僕は、この広島平和記念式典の献花を行って多くの方々が、亡くなられた方に対して慰霊を行うと同時に、世界に核兵器の無い平和な世界が実現することを祈っているのだと感じました。

【平和記念式典へ参加して学んだこと】

私は今回、広島平和記念式典に参加し、多くのことを学ぶことができました。特に、多くの人々が式典に参加していることが印象深いです。想像していた規模をはるかに超える参加者の人数に、驚かされました。国内からはもちろん、国外からも90を超える国々から多くの人々が広島に足を運ぶのを見て、これほど多くの人々が、広島に関心を持ち、核兵器廃絶と世界恒久平和を強く願っていることを学びました。また、今年5月に、原爆投下国の現職大統領として、初めてオバマ大統領が広島を訪問したことに対しても、式典であいさつをした中の多くの人を取り上げていて、それほど関心を集めていたことに気付かされました。そして、この式典だけのために、多くの団体や国が、一つになったこの日は、うしろを向くだけのものではない、前を向き、みんなで少しずつ、少しずつ、次の世代へ、世界の人々へ、平和の尊さを広げていくためのものだと、この式典から私は教えてもらいました。

僕は、平和記念式典に参加して学んだことについて報告します。僕が、式典に参加して感じたことは、平和への願いが日本だけでなく世界にまで広がっているということです。外国人の参加者がすごく多くて、戦争についてこれだけ多くの人々が考えているのだなと感じました。しかし、その中で、被爆生存者が少なくなっているということは、本当に原子爆弾の恐ろしさを知っていて、平和ということが一番に思っている人々がいなくなっているということです。だから、自分達が戦争や原爆について、もっと理解して、後世に伝えていかなくてはいけないということも改めて実感しました。

以上